



令和元年第3回定例会報告 Vol.34 秋号

福井みな子の市政報告

芦屋市議会議員

福井みな子

令和元年第3回定例会は、10月4日(金)に閉会し、採決の結果、すべての議案が可決されました。また、平成30年度の決算審査が3日間にわたり行われ、各党派から選抜された委員による活発な議論が展開されました。

決算特別委員会

～平成30年度の決算から今後の財政状況を考える～

決算審査では、市長ならびに公営企業管理者から提出された一般会計、特別会計及び公営企業会計の決算書等の計数が正確であるか、また予算の執行や各事業の運営等が適正かつ効果的に行われているかを審査します。市議会では、平成30年度の決算について、適切な予算の執行が行われているとし、賛成多数で決算を「認定」しました。

<平成30年度について>

芦屋市創生総合戦略4年目を迎え、創生総合戦略に掲げる「安心・安全」「住宅地としての魅力向上」「子育て世代のニーズに沿う環境づくり」「教育」に必要な予算編成が執行されました。

<平成30年度の主な事業>

- ◆ 高浜町1番に市営住宅を集約
- ◆ さくら参道の無電柱化
- ◆ 旧宮塚町住宅のリノベーション
- ◆ 岩園保育所の改修
- ◆ 図書館本館の大規模改修



決算に対して

～監査委員の立場から～



歳入の約半分を占める市税は、株式等に係る譲渡所得等の増加により約6億円の増収となったものの、中長期的には人口減少や年齢構成の変化によりいずれ減少に転じることが予想されています。

一般会計の市債＝市の借金は、増えていますが、JR芦屋駅南地区再開発事業や中学校の建替え事業など大規模な事業の完了後、市債残高は再び減少していくと思われます。持続可能な堅実な行財政運営が行えるように緊張感を持ち諸課題に取り組むことを要望します。



<一般会計>

1年間の収入の総額 (前年度比5.3%減少)
歳入決算額 443億3,069万円 24億8,750万円減少

1年間の支出の総額 (前年度比5.8%減少)
歳出決算額 433億3,553万円 26億8,414万円減少

歳入歳出差引から翌年度への繰越額を省いた実質的な黒字額
実質収支 5億 658万円

<市債残高>

＝市の借金(一般会計) 501億円 (うち震災関連分は136億円)
平成27年度末には475億円まで縮減したが、公共施設の老朽化対策や人口減少対策のための新たな投資的事業が必要になり、増加。



重要

ごみ焼却施設から基準値を越える水銀濃度が検出 焼却炉が一時停止

～ 今後、焼却炉水銀対策設備事業費、活性炭等購入費などに2億4,560万円 ～

水銀濃度基準値超過の原因は、6～8月の間に、燃やすごみに水銀温度計2本分相当の水銀を含むごみが混入したからと推定されています。今後は、水銀濃度を常時監視するため連続式水銀濃度計が整備されます。当分の間、水銀を含む体温計・温度計・血圧計は市が直接回収します。 問い合わせ：環境施設課 ☎32-5391

福井みな子の一般質問



児童虐待防止対策について



深刻化する児童虐待は、大きな社会問題として認識が高まっています。今年6月には親による子どもへの体罰を禁止し、児童相談所の体制強化を柱とする「改正児童虐待防止法」と「改正児童福祉法」が、可決、成立しました。

私の考え

児童虐待の防止については、様々な施策の推進が図られていますが、痛ましい事件が後を絶ちません。

問題が深刻化する前の早期発見、対応が何よりも大事です。学校や幼稚園の教員、保育士や医療従事者などが小さな異変でも発見できれば、子どもの命を守るのではないかと思います。声を上げる事が出来ない子どもたちの命を守るために、専門的な資格保持者を増員するなど相談体制の強化を要望します。

質問① 過去3年間の芦屋市における児童虐待の相談件数を問う。

<回答> 過去3年間の児童虐待の相談件数は、平成28年度63件、29年度68件、30年度105件

質問② 児童虐待について今までの取り組みに加え、市ではどのような対策を講じていくのかを問う。

<回答> 今後は、より専門的な相談対応や継続的な支援を行う機能を整備し、要保護児童対策地域協議会の中心的役割となる「子ども家庭総合支援拠点」の早期開設に向けて取り組んでいく。



虐待かもと思ったら **189**
いち・はや・く
189は、児童相談所全国共通ダイヤル

オレンジリボンは、児童虐待防止運動のシンボルです。この市政報告では、許可を得て使用しております。厚生労働省は毎年11月を児童虐待防止推進月間に定めおり、私は昨年も自民党の啓発キャンペーンに参加しました。



高齢者バス運賃助成について

現在、満70歳以上の方に、市内の阪急バスに半額で乗車できるICカード、「高齢者バス運賃割引証」を発行しています。平成30年度は、70歳以上の方の46.8%（9,838人）に、発行、利用されました。しかし、「バス路線がない地域住民は利用できない」という地域間格差が生じています。その解消方法として、「コミュニティバス運行の実施」「タクシー料金の助成」など要望のお声を頂いております。

質問 バス路線のない地域の高齢者に対する路線バスにかわる交通手段の確保について問う。

<回答> バス路線のない地域の高齢者に対する路線バスにかわる交通手段の確保は、高齢者バス運賃助成事業のデータ集計結果や他の自治体の取り組みなども参考にするとともに、地域の皆様に聞き取りを行っている。

私の考え

高齢者の移動支援は、社会参加の促進、福祉の向上につながります。高齢者バス運賃助成制度は必要性の高い施策です。地域住民の意見を伺い、公平性の保てる施策として、検討を進めるべきであると考えます。



住宅耐震化促進事業について

芦屋市の耐震化率を上げるための取組みの一つとして、「代理受領制度の導入」を提案しました。

現在、市民が耐震改修補助金を申請すると、まず耐震改修業者に改修費全額を支払い、補助金を受け取るのは後からになります。しかし、代理受領制度を利用すれば、耐震改修業者が、代理で補助金を請求・受領できるので、市民は改修費と補助金の差額分のみ用意すればよくなります。

芦屋市の住宅の現況（耐震改修促進計画より）

耐震化率：93.3% 耐震性がない住宅：2,758戸

質問 市民サービスの向上と住宅の耐震化の促進のために、代理受領制度導入を提案する。

<回答> 代理人受領制度の導入は、中間評価の際に進捗状況等を勘案し判断していく。

私の考え

地震の防災対策では、地震発生後の避難や救助などの対策に目が向きがちですが、最近「最初の一撃による被害」の軽減も注目されています。芦屋市の耐震化率を上げるために、代理受領の導入を強く要望します。

Photo Report



福井みな子も「販売ブース」で、



会派視察で岐阜県を訪れました。



令和元年、敬老会に出席しました。



恒例のドラゴンズ、お手伝い。

編集後記

夏が過ぎ去り、日が暮れるのも少しずつ早くなってきました。秋の夜長には読書をしたり音楽を聴いたり、ゆっくりと過ごしたいものです。秋といえば「芸術の秋」「スポーツの秋」「読書の秋」「食欲の秋」「味覚の秋」「行楽の秋」など様々な秋があります。これから、いよいよ秋も深まってまいります。皆様それぞれの秋をお楽しみ下さい。

福井 みな子

福井みな子プロフィール

H23年 芦屋市議会議員初当選。H27年 芦屋市議会議員2期目当選。第80代芦屋市議会副議長。H31年 芦屋市議会議員3期目当選。監査委員。

自民党芦屋市議会議員団所属

福井みな子

市政報告No. 34 R1年10月発行
〈事務所〉芦屋市打出町1-13
打出商店街南入口角
TEL & FAX : 34-0240

E-MAIL : fukui.minako@gmail.com

ホームページ : http://www.fukui-minako.com